令和 6 年度学校評価に係る自己評価

日立メディカルセンター看護専門学校

1 目的

本校の教育理念である「人々の生命と尊厳を基盤とし、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行うための専門知識・技術・看護実践能力を有し、社会の多様な価値観に対応できる専門職業人としての倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献できる看護師の育成」の実現に向けた学校運営を評価するため、自己評価を実施し公表する。

2 評価基準

学校を評価するための 9 つの大項目（学校運営、管理運営・財政、教育課程・教育活動、入学・卒業対策、学生生活への支援、施設設備、教員の育成、広報、地域との連携）について、大項目を構成する小項目を対象に、5（よい）、4（ややよい）、3（ふつう）、2（やや不十分）、1（不十分）の 5 段階で評価を実施した。

3 評価者

看護専門学校教員　12 名

4 評価時期

令和 6 年度の学校運営を対象に令和 7 年 1 月に実施した。

5 評価方法

教職員に評価表を配布し各自において自己評価を行い、その結果について「学校評価委員会」を開催して内容を確認し、客観性・妥当性を踏まえて再評価した結果を自己評価とした。

6 結果

(1) 9 つの大項目（図 1 参照）の評価点については、「学校運営」、「管理運営・財政」、「教育活動・教育課程」、「入学・卒業対策」、「学生生活への支援」、「施設設備」、「広報」、「地域との連携」が 4.0 以上であり概ね良好な結果であった。

「地域との連携」については、「おっぱいライフ」や地域のごみ拾いなどに参加するとともに、市のイベント等に看護支援のボランティアとして積極的に参加したことなどが評価を高めた。

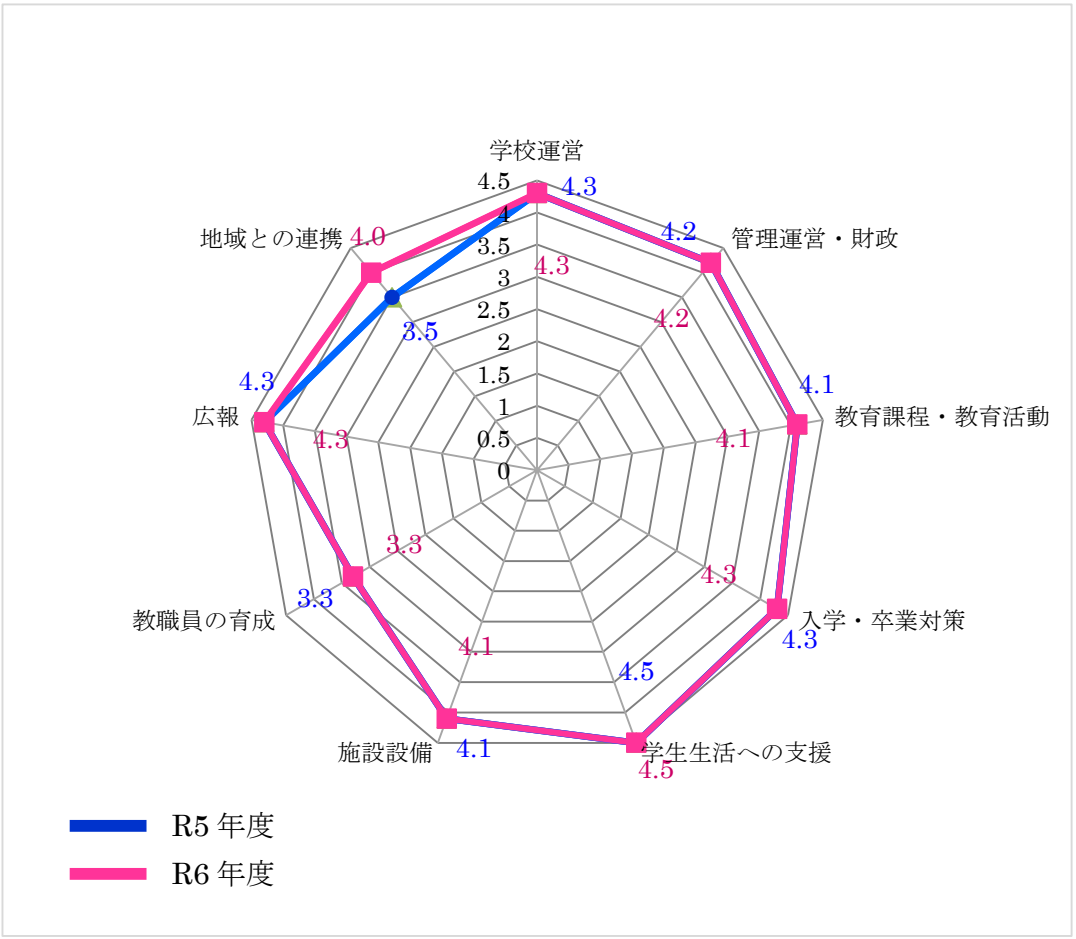
(2) 一方、「教職員の育成」については、「ふつう」との評価 3.0 を上回っているものの、さらに評価を高めるよう取り組む必要がある。特に、教員の研修時間を確保することなどが課題である。

(3) 自己評価結果を今後の学校運営に活かせるよう、評価の高いところは、さらなる評価向上に努め、評価の低いところは改善していくことに取り組むこととし、その実現に向けては、具体的な取組を掲げ、教職員間での情報の共有化を図りながら共通理解のもとで取り組んでいくこととする。

■ 表１ 学校自己評価に係る点数評価（大項目集計結果）

項目	R5 年度	R6 年度
(1) 学校運営	4.3	4.3
(2) 管理運営・財政	4.2	4.2
(3) 教育課程・教育活動	4.1	4.1
(4) 入学・卒業対策	4.3	4.3
(5) 学生生活への支援	4.5	4.5
(6) 施設設備	4.1	4.1
(7) 教職員の育成	3.3	3.3
(8) 広報	4.3	4.3
(9) 地域との連携	3.5	4.0

■ 図１ 学校自己評価に係る点数評価グラフ



＜参考＞ 大項目に対する評価

１ 学校運営（4.3）

学校運営などについて次のように評価した。

- 学校運営の考え方に共通認識を持ち円滑に学校運営がなされている。
- 組織としての意思決定システムが整理され、決定事項は円滑に周知されているが、更なる情報の共有化が求められる。
- 教育理念の実現と学校運営の課題を踏まえ、事業計画を作成しその実現に向け取り組んでいる。

２ 管理運営・財政（4.2）

組織の整備、教職員の職務、学籍管理、危機管理、事業計画と予算、学校評価などについて、次のように評価した。

- 教員数及び専門領域ごとの配置に改善を要するが、教育力の平準化に努めるとともに、職務分掌に基づく対応や円滑な連携に取り組んでいる。
- 非常勤講師は資格要件を踏まえて選考し、実習指導者は資格要件を明示している。
- 学籍簿は、学籍の記録や履修状況が正確に記載され適切に保管されている。
- 日ごろから安全対策に取り組むとともに、防災訓練を適切な時期に適切な内容で実施するなどで災害への対応に取り組んでいる。
- 学校評価」に毎年取り組んでいるが、次年度での改善や教育目標に沿った学生の育成にさらなる取組が求められる。

３ 教育課程・教育活動（4.1）

（1）教育理念・目標、教育課程編成などについて、次のように評価した。

- 学校の教育理念及び目標は、看護師としての能力と人間性を高め、地域社会に貢献できる看護師を育成するとし、さらには、社会情勢への変化にも対応できる看護師育成を目指すとして、その実現に取り組んでいるが、学生へのさらなる浸透が課題である。
- カリキュラムは、必要な科目及び時間を確保しており、次の見直しに備えて点検・確認等を行っている。また、教員間の授業等担当時間が均一ではないことに課題がある。

（2）授業、実習、単位管理、学級経営などについて、次のように評価した。

- 学習支援は、概ね適切に実施していると考えるが、学生の理解度に差が生じている状況が見受けられる。
- 教育方法は、学生の理解度を考慮するとともにタブレット端末を活用するなど工夫しているが、日常的な教材研究を十分に行う時間の確保が難しい。
- 授業評価を早期に実施し、教員の自己評価や学生の学習活動の評価につなげていくことが求められる
-

- 実習ガイダンスを適切に行い臨地実習に取り組んだが、感染症対策などでは実習施設との調整に苦慮した。
- 実習では、ケアを受ける対象者の権利や安全対策に十分配慮して実施している。
- 実習における学生の評価や教員の負担増の改善など、実習のあり方について引き続きの検討を要する。
- 成績評価及び単位設定は、基準を学則やシラバスに明示している。
- 科目試験では結果と模範解答を学生に伝え、学生の学習課題を明らかにしている。
- 学生の個性を生かすことや学生の意見に耳を傾けることなどに配慮し、学級運営に取り組んでいる。
- 悩みを抱えた学生に対しては、教員、カウンセラー及び父母等が連携しながら学生への支援体制を確保している。

４ 入学・卒業対策（4.3）

入学選抜、進路などについて、次のように評価した。

- 募集方針を明確にするとともに入学定員や入学選抜方法を明示し、学校訪問、オープンキャンパス、広報紙掲載などで広く広報している。
- 在学生が学生定員の 90%を下回っている状況があり、定員を満たす学生確保が課題である。
- 卒業生の進路状況は 100%が看護職又はそれに準じた仕事を選んでいる。

５ 学生生活への支援（4.5）

学修継続、社会活動などについて、次のように評価した。

- 定期健康診断の実施、臨地実習での感染防止対策などにより学生の健康管理を十分に行っている。
- 学生相談の専任カウンセラーを置き学生相談の窓口を設けている。また、ハラスメント防止規程によりハラスメントへの対応に取り組んでいる。
- 地域活動やボランティア活動への参加が見え始めている。活動の拡大に向け、意識啓発や場所の提供などのさらなる取組が求められる。
- ソフトバレーボール大会などの課外活動により、学生間及び学生と教職員の交流を図っている。

６ 施設整備（4.1）

教育・学習環境、実習施設などについて、次のように評価した。

- クラス数に見合った専用の普通教室を有していることをはじめ、実習室、演習室、パソコン教室、図書室、講堂など教育に必要な校舎機能を有している。
- 保健室をはじめ、男女別のトイレ・更衣室、学生ホール等の福利厚生施設が整備されている。
- 図書及び教材は、教育内容に見合ったものを計画的に整備し定期的に点検

しているとともに、学生数に見合った数を整備しているが、古いものの更新に時間を要している。

- 実習施設は、実習受け入れ基準を満たし実習目的に沿った施設を確保しており、実習施設と学校が連携しながら学生を指導している。

7 教職員の育成（3.3）

研究・研修活動などについて、次のように評価した。

- 研修予算は確保しているが、研究・研修時間の確保に余裕がないなど、研究・研修に取り組める環境の確保に課題がある。
- 看護学生の育成に向け、教職員の協働で様々な課題に円滑に取り組んでいるが、さらなる情報の共有化が必要である。

8 広報（4.3）

広報活動などについて、次のように評価した。

- 学生募集要項、スクールガイド及びポスター等を作成して様々な広報活動に活用している。
- オープンキャンパスや高校訪問での学校紹介、市村広報紙や新聞広告への学生募集掲載、イベント等のマスコミ取材依頼など、多様な広報手段を活用し適時適切に広報活動を行っている。
- 定員割が生じていることから、学生確保に係る広報の成果が得られていないことに課題がある。

9 地域との連携（4.0）

地域との連携などについて、次のように評価した。

- 地域連携が十分ではない状況はあるが、「おっぱいライフ」や地域のごみ拾いなどに参加するとともに、市のイベント等に看護支援のボランティアとして積極的に参加している。

以　上